

標 題 : CD142+/CD61+, CD146+ and CD45+ microparticles predict cardiovascular events in high risk patients following Mediterranean diet supplemented with nuts
ナッツを補給した地中海食事に従っている高リスクの患者で
CD142+/CD61+, CD146+および CD45+微粒子は心臓血管系事象を予測する

著 者 : G. Chiva-Blanch, ·····, L. Badimon (スペイン Hospital de la Santa Creu i Sant Pau 心臓血管系研究センター- CSIC-ICCC)

掲 載 誌 : Tromb. Haemost. 16(1): 103-114 (2016)

要 旨 :

血中微粒子(cMPs)は、アテローム血栓症の発症に関連する細胞情報伝達で重要な役割を演じる活性化細胞によって放出された小さな高リン脂質の微小胞である。

心臓血管系事象の発生で各種血管から放出される血中微粒子の予後的重要性を、心臓血管系危険因子が高い栄養および薬剤治療中の無症状の患者で、研究することを我々は目的とした。

この研究は、5年間追跡した PREDIMED 研究でナッツ入り地中海食事に割当てられた患者から、50人を引き出して入れ子にした症例-対照研究である。

追跡中に心臓血管系事象を患った患者 25人、および性別、年齢、標準的な心臓血管系危険因子が 25人の患者と合う無症状の人を、我々はランダムに選んだ。

総アネキシンV-(AV)+ 血中微粒子および血管区分の細胞由来の血中微粒子を、開始時および1年追跡後に、フローサイトメトリーで定量した。

ナッツ入り地中海食事および薬剤による治療は、心臓血管系事象の患者で、微粒子の値も放出源も変えなかった。

しかし無症状の人では1年追跡で、総 AV+、PAC-1+/AV+、CD61+/AV+、CD142+/CD61+/AV+、CD62P+/AV+、CD146+/AV+、CD63+/AV+および CD11a+/AV+血中微粒子の 40-86%低下を示した($p \leq 0.046$ 、全て)。

CD142+/CD61+/AV+、CD146+/AV+、および CD45+/AV 血中微粒子は、心臓血管系事象の患者と比較して無症状の人で低下した。

CD142+/CD61+/AV+、CD45+/AV および CD146+/AV+血中微粒子による ROC-曲線クラスター化モデルが、将来の心臓血管系事象を予測した [$p < 0.0001$ 、AUC=0.805 (0.672 から 0.938)]。

ナッツを補給した地中海食事で治療し最新の心臓血管系薬剤治療を受けた心臓血管系リスクが高い人では、活性化した血小板、白血球および内皮細胞から由来する血中微粒子が減少して、次の4年以内の心臓血管系事象の予防が予測される。

キーワード : 血中微粒子、心臓血管系事象、白血球、血小板、組織因子
